

私が最初に利用したのが、田田無市の分館、谷戸図書館だ。ある日、いつものように何冊かの本を借りようとカウンターに持っていくと、受付にいた男性の方が、私が借りようとしている本の種類から、何に興味を持ち、調べたいのか、お分りになったのか、「普通はお借りになった本に、こちらから何かを申し上げることはないのだけれど、

こんな本も読むとおもしろいですよ」と本棚まで案内して一冊の本を紹介してくださったことがあった。ご自分も読まれておもしろかったからと、おっしゃっていた。思いがけなかった。嬉しい一瞬だった。本を紹介して人の心が触れ合える瞬間だった。

田無市と保谷市が合併して西東京市となり我が家から一番近い、ひばりが丘図書館が私の通う図書館になった。新しい建物、広い空間、私の好きな図書館になった。ここでは机を借りてゆっくり読書タイム。常連さんの顔が並ぶ。滞在時間は一時間から二時間。充実した時間がある。

最近インターネット利用が進

わたしと  
図書館



木村美和子

み、自宅で検索、予約、たいへん便利になった。世間では「本離れ」も叫ばれたが、やはり人間から「物を読む」という習性はなくならないだろう。人間に知的好奇心があるかぎり、図書館の存在は大きいと思われる。

図書館の便利さから、私は図書館愛好家だ。かなりの冊数を借りている。リクエストで新刊本もだ

いぶ購入していただいたのではないかと思う。でも、以前に比べて図書館にいる時間は少なくなった。

自宅で予約、本は取りに行くだけ、しかも自分で、カードで機械の上で本を乗せるだけで受け付けできてしまう。図書館のひととの接触はなくなった。

事務処理の効率化。スピーディ。そして入り口には何やら盗難防止のセンサー門？ これも時代を反映しているのかもしれない。新システム、図書館内は利用者でにぎわっている。谷戸図書館にいらした方、お元気ででしょうか？ 図書館も時代のニーズに合わせて変化しているのです。

## 大学生の受け入れ

### 「職業選択の一助に」

今年度は、司書課程の学生二名、インターンシップの学生二名を、それぞれ二週間ほど受け入れました。

司書の仕事は本と人を結びつけることといわれます。そのためには資料の選定から受入、除籍にいたる一連の作業があり、また利用者の調べものの手伝いをしたり、おはなし会や講演会などの行事を行ったり、とさまざまな仕事があります。

すべての仕事を経験していただくことはできませんが、図書館の仕事の一端にふれることが、将来の職業選択の一助になればと思います。

また、図書館を理解し、活用する社会人になってくれることを期待しています。

学生お二人の感想を紹介します。

**図書館インターンシップを終えて**

武蔵野大学

持田佳奈子

小暮 千尋

インターンシップ(体験就業)で八月五日から十日間、中央図書館と保谷駅前図書館にお世話になり、色々な事を学びました。

まず驚いたのは、利用者が多く活気に満ちていることです。貸出冊数は三十冊、市内のみならず他市や都

内からも図書等の取り寄せが出来ます。週単位で新着図書が入り、一年間で出版される本、六万タイトルのうち、三分の一である二万タイトルを収集しています。

便利ですが、働く側となると大変です。常に資料の出入りがあり、それに伴う作業が必要になるのです。新しい設備が導入されれば、資料全体を変更してゆかなければなりません。毎日が気の遠くなるような作業の連続です。

ほかにも、図書館は子どもたちへのおはなし会、ハンディキャップサービス、地域行政資料サービス等々の様々なサービスも行っています。

図書館は地域の文化のバロメーターです。このすばらしい西東京市図書館の、更なる充実と発展を心より期待しております。



幼顔の中学生が、図書館のエプロンをつけると、仕事人の顔に変身します。

職場体験の期間は短いですが、働くことの意義や責任感、充実感を感じ取ってもらえればと、図書館職員は考えています。

これから図書館を利用される際に、彼らと遭遇しましたら、温かい目で仕事振りを見ていただけたらと思います。